

# 2019 年度山江村農業再生協議会水田フル活用ビジョン

## 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

山江村は、耕地面積の35パーセントの210haが水田で、ほ場整備率は92.68パーセントであるが、山間部が多く団地化が困難で十分な効率を上げられない状況である。

水田農業の主力は水稲で、肉用牛繁殖も盛んである事から飼料作物の作付が目立つ。

地域農業者を見てみると、農家の高齢化が進んでおり、農家の作付面積は年々減少の傾向にあることから、不作付地の拡大の抑制及び後継者の育成が急務となっている。

現在、本村の農家数は253戸（専業農家66戸、兼業農家187戸）で、16の行政区があるが、ほとんどの地区が中山間地域で、1戸当たりの経営面積も35アール程度と狭く、また高齢化の影響もあり山間地においては、土地利用型作物も定着せず自己保全管理等の不作付地も多い。

平坦地においても、兼業農家の米飯用水稲の作付けが多く、団地化が難しい状況であり、大豆、麦等の生産振興は図れていない。また、二毛作による圃場の活用が少ないため、年間を通した圃場の有効活用がなされていない状況である。今後、エゴマやミシマサイコの作付等土地に適した作物を振興するとともに、平坦地においては、大豆、麦、そば、メロン等の高収益作物の生産振興を図りつつ農業所得の向上を目指す。また、地域の農業生産組織のリーダーを育成しながら、土地利用集積、集団化及び農作業の受委託等を進め、今後の土地利用型農業の活性化を図る。

## 2 作物ごとの取組方針等

村内の約210ha（不作付地含む）の水田について、適地適作を基本として、産地交付金を最大限に活用しながら、作物生産の維持・拡大を図っていく。

特に、飼料用稲、きゅうり、メロン、玉ねぎ等収益力向上につながる転作作物を主体とし、農業所得の向上を図る。また、麦、飼料作物、WCS用稲については、まだまだ定着していない「二毛作」や、需要に応じた飼料作物の作付けを目指すための「資源循環」を推進、支援を行っていく。

### (1) 主食用米

米の販路確保及び販売拡大を目指し、消費者にとっても安心・安全な米作りを行い、米の主産地としての地位を確保する。また、前年の販売実績など需要動向や集荷業者等の意向を勘案しつつ、米の生産をおこなう。

### (2) 非主食用米

#### ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、本村においてはWCS用稲や加工用米への転作が進んでいる。飼料用米については、管内において飼料用米加工施設がない事や、最寄りの施設への輸送経路や加工コストなど解決すべき問題が多い。

#### イ 米粉用米

米粉用米については、集荷業者等の意向を勘案しつつ作付けを推進する。

#### ウ 新市場開拓用米

新市場開拓用米については、国内主食用米需要が減少する中で、国産米の新たなマーケットとして確保・拡大が必要と考えるが、集荷業者等の意向を勘案しつつ作付けを推進する。

#### エ WCS用稲

主食用米の需要減が見込まれる中、WCS用米を転作作物に位置づけ、耕種農家と畜産農家との連携による水田から良質の粗飼料生産を行い、畜産農家のコスト低減を図る。

#### オ 加工用米

当該地域の加工用米は、地元の酒造メーカーへの販売が中心である。多収品種の取組面積については、横ばいとなっているが、需要もあることから、焼酎原料米の多収性品種への転換を進め、多収低コスト生産を目指すため、需要者から指定される多収品種「ミズホチカラ」や「たちはるか」の作付けを推進し規模拡大を図る。

#### カ 備蓄米

備蓄米については、集荷業者等の意向を勘案しつつ作付けを推進する。

### (3) 麦、大豆、飼料作物

麦については、産地交付金と活用して排水対策である溝切作業等を行うと共に、収穫時のコンバイン共同利用を実施する生産性向上の取組みに対し支援を行い作付面積の拡大を目指す。

飼料作物については、耕種農家と畜産農家との連携による水田から良質の粗飼料生産（イタリアンライグラスやソルガム等）について、現状の面積を維持していくこととする。

大豆については、集荷業者等の意向を勘案しつつ作付けを推進する。

### (4) そば、なたね

企業等との契約に基づき、現行の栽培面積を維持しつつ、産地交付金を活用し栽培面積の拡大を目指す。

また、担い手への作付集約、適正な栽培管理（溝切による排水対策）による生産性の向上の取組を推進する。なお、品質向上の為、納品前の品質検査を必ず受けるものとする。

### (5) 高収益作物（園芸作物等）

学校給食の地産地消を図る上で、村内における野菜の作付けが必要不可欠である。村内野菜の消費を高めるため、1年を通し、野菜を供給できるよう、野菜の作付品目の多品種化と作付面積の拡大を図る。

また、園芸作物（野菜等）や露地野菜への支援を行いながら、今後、作付面積の維持・拡大を図る。「きゅうり」「メロン」「なす」「ニンニク」「かぼちゃ」「ミシマサイコ」「えごま」やその他野菜の作付面積の拡大を目指す。

### (6) 畑地化の推進

将来に向けて畑作物（高収益作物）の本格生産に取り組もうとする農家の経営転換について支援し、農家の所得向上を目指す。

## 3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	125.7 602 t	128.0 608 t	130.0 617 t
飼料用米	0.0	0.0	0.0
米粉用米	0.0	0.0	0.0
新市場開拓用米	0.0	0.0	0.0
WCS用稲	17.8	19.2	19.5
加工用米	3.0	3.0	3.1
備蓄米	0.0	0.0	0.0
麦	3.1	5.0	7.7
大豆	0.0	0.1	0.1
飼料作物	13.1	17.5	18.0
そば	0.1	0.1	0.1
なたね	0.0	0.0	0.0
その他地域振興作物			
野菜	9.5	9.5	10.0
果樹	7.9	7.9	8.0
花木	0.2	0.2	0.2
薬草	1.3	1.3	1.5
えごま	0.0	0.3	0.5

※主食用米の目標値（2019、2020年度）において使用した単収は 475kg/10a

#### 4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	前年度（実績）	目標値
				2018年度	2020年度
1	露地・施設野菜	高収益作物作付助成 （基幹）	面積拡大	3.3ha	(3.0ha) 4.0ha
2	ミシマサイコ えごま	重点品目作付助成 （基幹）	面積拡大	1.3ha	2.0ha
3	麦・飼料作物	農地高度利用助成 （二毛作）	面積拡大	10.1ha	18.0ha
			耕地利用率	108%	111%
4	飼料作物（基幹作）	耕畜連携助成（基幹）	堆肥散布面積	1.8ha	2.2ha
			実施率	1.1%	1.3%
5	加工用米（多収品 種）ミズホチカラ、 たちはるか	多収品種（加工用米） 加算（基幹）	面積拡大	2.4ha	3.5ha
			反収増加	472 kg/10a	600 kg/10a
6	加工用米（多収品 種）ミズホチカラ、 たちはるか	多収品種（加工用米） 立毛乾燥取組加算 （基幹）	面積拡大	3.3ha	3.5ha
			乾燥費の低減	8.3割減	(2割減) 9.0割減

※ 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内として下さい。（目標値の上段括弧書きは変更前の数字。）